

障がい者支援の取り組み

障がい者の中には、外出や相手との意思疎通に手助けを必要とする人もいます。

そのような人たちの社会参加の機会を確保するため、花巻市社会福祉協議会では、要約筆記や手話、点訳などのボランティア養成講座や、障がい者の暮らしに役立つ情報を提供する講座を開催しています。ボランティアに興味のある人は、花巻市社会福祉協議会(☎24-7222)へお問い合わせください。

要約筆記ボランティア

聴覚障がい者の多くは病气やけが、高齢などにより聴力を失った「中途失聴・難聴者」です。中途失聴・難聴者はそれまで手話を習得する機会がなかったため、筆記による通訳が有効な意思疎通の手段となります。

要約筆記者は、そのような人たちの耳代わりになって「その場で話された内容を文字にして伝える」役割を担います。



暮らしの輝き☆応援講座

花巻市社会福祉協議会では、障がい者やボランティアが交流を図りながら情報交換したり、暮らしに役立つ技術を習得したりすることができる「暮らしの輝き☆応援講座」を開催しています。受講料は無料で、聴覚・視覚障がい者を対象にそれぞれ年6回開催。障がい者の家族や支援者、ボランティアなども受講できます。

外出機会が制限されることがある障がい者にとって、よい情報交換や交流の場となっています。



- 受講者の声 -

- 和紙の紙すき体験がとても楽しかったです。家にばかりいると頭も体も鈍ってしまうので、そうならないようみんなで一緒に参加することが大切だと思います(男性)
- バスでの移動研修が楽しかったです。バスの中でのおしゃべりは日々のストレス解消になります。盛岡の偉人館の見学も、通訳者を通して内容を理解することができました(女性)

12月3~9日
障害者週間

共に生きる社会を目指して

障がい者の就労・余暇活動と障がい者支援の取り組みを紹介します



写真:「マルルまほろば」の皆さん

障がいに対する理解は少しずつ深まってきてはいますが、障がい者本人が望む地域生活や社会参加を実現するためには、さらなる理解と支援が必要です。

ここでは、皆さんに障がいに対する理解を深めていただくため、障がい者の就労や余暇活動、障がい者支援の取り組みを紹介します。

障害者週間(12/3~9)

皆さんの間に広く障がい者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障がいのある人がさまざまな社会活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的に制定されたものです

たのしみ

余暇を利用し、創作活動やスポーツなどさまざまな活動を行っている障がい者もいます。

10月22日~24日に岩手県で開催された全国障害者スポーツ大会(希望郷いわて大会)には、本市からも多くの選手が出場しました。



◀希望郷いわて大会出場を報告するため市役所を訪れた選手の皆さん

希望郷いわて大会 多くの障がい者が活躍

「希望郷いわて大会」には本市からも多くの選手が出場し、素晴らしい活躍を見せました。

また、本市が会場となったバレーボール競技の開始式では、障がい者や支援者、高校生のダンスボランティアなど約100人がおもてなしダンスを披露。5カ月前から練習を重ねてきた、手話を取り入れたダンスに、会場から大きな拍手が送られました。



るんびにい美術館

るんびにい美術館では企画展を年間4~5回開催し、県内はもとより全国の障がいのある人たちの作品を紹介しています。コンサートや講演会なども開催しているほか、2階のアトリエでは障がい者の創作活動の様子を見学(*)することもできます。

* 開館日の午前中に見学できます(日曜日を除く)。事前にお問い合わせの上、お出かけください



るんびにい美術館
 開館時間 午前10時~午後4時
 定休日 水曜日、第4火曜日
 所在地 星が丘1-21-29
 入館料 無料
 電話番号 22-5057
 運営主体 社会福祉法人光林会

はたらく

市内には、障がい者が仲間や支援者と協力しながら働いたり、就職を目指して訓練を行ったる場合があります。

障がい者が職場を探すときは、支援者や関係機関などが適性や体力的なことなどを総合的に検討しながら、障がい者本人に合う職場が見つかるようお手伝いしています。

民間事業者や関係団体、行政は、障がい者が自分の個性と能力を生かしながら楽しく働くことができる環境を整備するため、互いに連携しながらさまざまな取り組みを進めています。

障がい者就職相談会

10月13日、障がい者の就職支援を目的とした「障がい者就職相談会」(県南広域振興局主催)が、ホテルグランシェール花巻を会場に開かれました。

本市を会場に開催されたのは今回が初めてで、県南部の28の事業者と、障がい者や関係者など61人が参加。事業者と障がい者が個別に面談し、就職に向け相互理解を図りました。



障がい者の就労の場
「マルルまほろば」
が開所

東和町の社会福祉法人東和仁寿会は、慣れ親しんだ地域で働くことを希望する障がい者を受け入れるため、国や県、市の補助を活用しながら東和町土沢地内に新たな施設を整備しました。11月に完成した新施設は定員を20人とし、豆腐の製造販売やタオル印刷などの作業を行います。

*「マルル」とはタヒチ語で「ありがとう」の意味。言葉の響きも「〇(まる)」を連想させることから、感謝の気持ちと、地域との幸せの輪が広がってほしいとの願いが込められています



◀▲施設の本格稼働に向け作業工程を確認する利用者の皆さん